

レフランスコーナー

蔵書点検、何をやるの？

毎年、10月中旬に一週間ほど休館して、図書館では蔵書点検を行っています。蔵書点検とは大切な蔵書がなくなっていないか、間違えた場所に配架されていないか、総点検する作業です。書棚の移動など、普段はなかなかできないこともこの期間に行います。必要なとき、あるはずの本がない。このような事態が起らないため、そして図書館をより使いやすくするための作業なので、皆さんにご理解いただければと思います。

??? 今回のハテナ ???

最近、テレビで図書館が紹介されているのをよく見ます。「今日、図書館のことをやりましたよ」とお話を下さる方もいらしゃいます。今回は、図書館をもっと知ってもらえと、いいな、という思いを込めて、この本をおすすめします。本を開くと、全国各地の図書館の「真実が、働いている人も、利用する人も、皆真剣で生き生きとしています。読み終った後は、自分は図書館が好きなのだな」ということ、ここ下松市立図書館も素敵な場所だ」ということに改めて気づきました。

図書館を知ろうと思ったとき、まずはぜひこの本を手にとって、図書館を好きになって下さい。



ほくは、図書館がすき

本ぶより

No.3



本ぶより No.3 はいかがでしょうか

冬の読書のお供に、

ありがとうございます。

いつも図書館をご利用いただき、



あおぞら号 Vol.3 リポート



移動図書館車「あおぞら号」は老人ホーム等の施設にも巡回しています。今年度から巡回が始まった「のんびり村 花岡」さん（B6コース 隔週水曜 / 14:10~14:30頃）では、職員さんや利用者さんがいつも楽しく利用してくださり、車内はとても辰屋かです。こちらが元気をいただいています！

あおぞら号と記念撮影されるお客様も...



職員の つぶやき

「じんげんと寒くおぼえてきたが、風邪などひかれていませんか？ 寒くおぼえて空気が澄んで星空を見るにはいい時期だと言われています。10月には「皆既月食」があり、空を見上げても多いためお楽しみください。月がかわり、真暗になるのでお楽しみ。赤く見えるのは不思議です。冬はイルミネーションも綺麗ですが、今年は星空を見上げてみようと思います。

平成26年12月1日
下松市立図書館発行

『モネ、ゴッホ、セカソも治療した
絵のお医者さん』
岩井希久子 美術出版社 (1724.917)
年月を経て傷ついてしまった文化
遺産を治すのが修復家の仕事。
著者は細心の注意を払って絵画を
「治療」します。本来の色づかいが、
作家の思いが損なわれないように。
著者が関わったものには、山口県立
美術館収蔵の香月泰男くシベリア
シリーズも。
名画を私たちに、さらには未来へと
繋げる修復家の仕事を、ぜひ
一度ご覧下さい。



知識のフロア



□ シルバー川柳
誕生日 ロック吹いて
立ちくらみ □
社団法人全国有料老人ホーム
協会
+ ポプラ社編集部/編

文字も大きて読みやすい!! (911.4/シル)

シルバー世代の皆様も、そうでない方も、
みんなが大笑いできる、そんな一冊。
変りばえたい毎日、あふれた日常も、
こんなニヤニヤにあふれた瞬間の集りなんですわ。
あなたのお気に入りの一句はどこですか?
※1~4巻まで既刊

文学のフロア

『注文の多い注文書』 筑摩書房
小川 洋子・クラフト・エヴィング商会着 (913.6 オカ)
様々なお話のなかに登場する、この世に存在
するかもしれない『なにか』
その「なにか」の探索を作家の小川洋子さんが
「ないものあります」を謳い文句にしている
クラフト・エヴィング商会に依頼した。
クラフト・エヴィング商会というのが、また面白い
お店で、古今東西のなぞぞうだけど、存在したら
素敵!!という品物を扱っているお店なのです!!
一つのお話が、注文書、納品書、受領書という形
で構成されていて、小川さんとクラフト・エヴィング商会
が交互にお話を書いていらっしゃいます!
お話を更に味わい深いものにする写真と不思議
な世界観が楽しめる作品です。



児童書のフロア

図書館入口

